

2014

Vol.18

5月10日

# 花水木

ハナミズキ

Kawaguchi Municipal  
Medical Center



## 特集

### 地域がん診療連携拠点病院 として取り組んでいること

p 2 ~ p 3

## 目次

- p 4 病院の取り組み: ナイチングールと看護週間~イベント紹介~
- p 5 KMMC Report:  
外来化学療法室を拡充  
病院機能評価 機能種別評価 一般病院2(3rdG:Ver1.0)  
を認定されました
- p 6 部署紹介: 薬剤部
- p 7 医師の交代のおしらせ
- p 8 四季の移ろい: 母の日と白いカーネーション
- p 8 ミニギャラリー3ヵ月



基本理念

市民に信頼され、安全で質の高い医療を提供します

# 地域がん診療連携拠点病院

## として取り組んでいること

院長 大塚 正彦

我が国のがん対策については、平成18年に制定されたがん対策基本法とこの法律に基づくがん対策推進基本計画により、総合的かつ計画的に推進してきました。全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、がん診療連携拠点病院が整備されてきました。当センターもこの地域がん診療連携拠点病院に指定されています。

がん診療にあたっては、肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、肝臓がんの5大がんに対して質の高い集学的治療を行うことが求められています。当センターが取り組んでいる、あるいは今後取り組む予定の事柄についてご紹介いたします。

**外来化学療法室設置:**近年、多くの化学療法が外来で施行できるようになってきました。当センターにおいても7年ほど前より外来での化学療法を行ってきました。しかし患者数の増加が著しく、それに対応することを考え、本年5月連休あけには20床を有する「外来化学療法室」を新規オープンいたします。

**無菌室の設置:**白血病など血液の疾患を診療しているため、病棟においては無菌室が不可欠です。現在1室のみですが無菌室として活用しています。また血液疾患などの化学療法を多用する病棟においては、患者さんへの感染を防ぐために、面会の方々へのマスク着用、手洗い励行、さらに子供たちの面会制限を行っていますが、皆さまにはご理解をお願いいたします。

**レジメン登録・管理:**レジメン(化学療法に

際して、薬剤の用量・用法、治療期間などを明記した治療計画書のこと)を院内登録制にし、医師個人個人が勝手にさまざまな薬剤を使用するのではなく、定められた方法で安全に治療を行うことを病院として担保するようにしています。登録するレジメンについては副作用なども考慮し、レジメン管理担当部署が認定するようになっています。電子カルテ上はまだ登録されたレジメン以外も使用できる環境になっていますが、登録されたもの以外使用できないシステムにする予定です。

**Cancer Board実施:**これはがん診療に関する複数の診療科の医師、看護師、検査技師など多職種のスタッフが集まり、治療の方向性や是非、経過観察の方法、ケアのあり方などを話し合い、治療方針を決めていくカンファレンスです。

**緩和ケア:**がん診療において重要なことの一つに「緩和ケア」があります。これは癌と診断された患者の方々のあらゆる痛み(身体的、精神的、社会的等)に対して継続的に痛みを軽減するようなケアを提供していくことです。緩和ケアを行うに際しては、医師、看護師、薬剤師等の多職種によるチームでの活動が重要な意味を持ちます。入院中はチームで回診やカンファレンスを行い、最善の方法を考えていきます。また退院後は緩和ケア外来にて十分な対応を行います。そのために、緩和医療専門の医師や緩和ケア認定看護師など人材育成を行っていきます。

**地域連携:**がん診療は1病院完結で行われるものではなくなってきています。拠点病院において主たる治療が終了したあとは、地域の開業医の先生方、あるいは地域の病院などと緊密な連携をとりながら、経過を診ていきます。できるだけ患者さんに不安がないように、地域連携パス(退院後の診療の方向性をきめた治療計画)を用いながら、さらに紹介元あ

るいは紹介先の医療機関の方々とのカンファレンスなどを行なながら充実させていく予定です。

このようにがん診療はさまざまな形で進歩していきますが、当センターにおいても質の高いがん診療を提供できるようがんばっていきます。

## 自分でできる・自宅でできる療養生活の簡単セルフケア

緩和ケア認定看護師 徳富 直美

在宅がん治療を行っている方々は、ご自宅にいらっしゃるときに疲れたな、だるいなと思われることもあると思います。そのようなときに下記に示すようなことを試みていただくと、楽に生活していくことができると思います。でも実はこれらは健康な人がおこなってもよいことばかりですので、皆さんも試して下さい。



- 1) **リラックスをする**: ときどき深呼吸、腹式呼吸をして身体をリラックスさせましょう。
- 2) **うまく気晴らしをする**: 音楽を聴く、テレビを見る、おしゃべりする、家事をする、趣味を楽しむ、ペットを飼う、植物を育てる、などなど、気晴らしになることをしてみましょう。
- 3) **軽い運動を取り入れる**: 散歩する、軽い体操をする、ヨガをするなど、無理のない範囲で軽い運動を生活に取り入れましょう。
- 4) **ぐっすり眠る**: 自分にとって快適な環境や寝具(ベッド、布団、枕など)で、ぐっすり眠るようにしましょう。
- 5) **安静にする**: 疲れを感じたら、無理をしないで安静にして休息をとることも大切です。
- 6) **マッサージをしてもらう**: 凝りを感じるところを軽くマッサージしてもらったり、手を当ててもらうと楽になることがあります。
- 7) **温める**: カイロ、電気毛布、湯たんぽ、温めたタオルなどを使って、だるさや不快感を感じるところに当ててみると、つらさがやわらぐことがあります。

**<温タオルのつくりかた>**  
軽く絞ったぬれタオルを電子レンジで1~2分加熱し、スーパーのレジ袋に入れると簡単・便利に使える温タオルになります。

- 8) **たくさん笑おう**: ストレスをためないようにしましょう。  
笑って気分転換をして、ストレスを発散しましょう。



# ナイチンゲールと看護週間 ~イベント紹介~

7B病棟副看護師長 北川 節子

近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの生誕日である5月12日を、「看護の日」といいます。「看護の日」は21世紀の高齢化社会を支えていくために、看護の心、ケアの心、助け合いの心を私たち一人一人が分かち合い、老若男女を問わずに誰もが育むこと、そして看護に対する理解を深めてもらいたいという願いから制定されました。

毎年5月12日を含む日曜日から土曜日までを看護週間とし、2014年は5月11日(日曜日)から5月17日(土曜日)までが看護週間となります。日本看護協会ではメインテーマ「看護の心をみんなの心に」として、全国各地で気軽に看護にふれ、楽しめる行事が行われています。当センターでも、地域の皆様に看護への理解を深めていただくために、看護週間にふれあい看護体験、ふれあいコンサート、外来ロビーでの各病棟を紹介するポスター展示を行っています。



ポスター展示

ふれあい看護体験では、ふだんは直接かかわる機会の少ない医療者との交流、施設見学、看護体験を通して看護の仕事について知ることができます。参加者は高校生や主婦、会社員など幅広い層にわたっています。また看護体験は市



ふれあい看護体験参加者と清水看護部長

民の方々が、医療や看護について考えたり、保健医療福祉や地域との連携についての情報が得られる貴重なきっかけとなっており、毎年好評を得ています。

ふれあいコンサートは、グランドピアノが置かれている広々とした外来ロビーで行われます。ボランティア活動をされているピアニストの石井英子さんとテノールソリストの石井修さんによるコンサート、また石井英子さんの指導のもと、大勢の看護師がコンサートのために何度も練習を行い、当日のコンサートで熱唱する場面も見られます。観客の中には、感動して涙ぐむ方や一緒に歌を口ずさむ方もおり、毎年感動のコンサートになっています。

当センターでは、毎年行われる「看護の日」のイベントを通して、市民の皆様に看護を身近に感じていただき、看護の心をみんなの力にして、支えあう心、助け合いの心を分かちあって、絆を深めていきたいと願っております。今年も多くの市民の方々の参加をお待ちしております。

# 外来化学療法室を拡充

副院長 山崎 博之

化学療法とはおもに抗がん剤や分子標的薬等の薬でがん治療を行うことを言います。以前では入院して、多種多様の副作用に耐えながら治療を行うという状態でしたが、抗がん剤等の進歩もあり、最近では外来で治療を継続することが十分に可能になってきました。外来での化学療法すなわち、がんの在宅医療は患者さんにとっては、ご自分のペースで、また家族に囲まれて普段通りの生活ができるという計りしれないメリットがあります。このような背景もあり現在では、外来での化学療法を受ける患者さんが増加してきています。

当センターでは当初、内科外来の一画に「外来化学療法室」を設けて治療を開始しましたが、新型インフルエンザ流行を受けて7A病棟での外来化学療法に切り替えていました。しかしこのたび、地下1階の健診センター横に新たに「外来化学療法室」を設置することができました。ここでは診察室3室、治療のためのリクライニングチェア17床、ベッド3床を確保することができました。この概要は大学病院と比較しても、決して見劣りしない規模となっています。新しい部屋でゆったりとした気分で治療を受けていただければと思います。

現在、当センターでは月間約250件の化学療法を実施していますが、今後もより質が高く、安心・安全な化学療法を目指して、がん診療を充実させていきます。

## 病院機能評価 機能種別評価 一般病院2<3rdG:Ver1.0>を認定されました。

この度当センターでは、公益財団法人日本医療機能評価機構の訪問審査を平成25年7月11日・12日の2日間うけ、平成25年12月6日付で認定証の交付を受けました。認定期間は平成25年12月6日から平成30年2月8日までの5年間です。評価結果の詳細については日本医療機能評価機構Webサイトをご覧ください。

今後とも「市民に信頼され安全で質の高い医療を提供します」の基本理念の下、医療の質の向上を図り、安心、安全な医療を提供できる組織づくりをしていきます。



### 『病院機能評価とは』

病院機能評価は、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動（機能）が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。評価調査者（サーベイサー）が中立・公平な立場にたって、所定の評価項目に沿って病院の活動状況を評価します。評価の結果明らかになった課題に対し、病院が改善に取り組むことで、医療の質向上を図ろうとするしくみです。

日本医療機能評価機構は、国民の健康と福祉の向上に寄与することを目的とし、中立的・科学的な第三者機関として医療の質の向上と信頼できる医療の確保に関する事業を行う公益財団法人で、平成7年に設立されています。現在、約8500病院のうち当センターを含めて全国で2344病院、埼玉県では97病院が認定を受けています。（平成26年2月現在）

# 薬剤部



薬剤部の人員構成は薬剤師19名、事務パート5名で調剤部門、病棟部門、DI部門、治験担当に分かれています。また医療チームの一員として糖尿病教育入院・感染対策・医療安全・緩和ケア・褥瘡対策・NST業務等に関わり薬物療法のサポートに努めています。

## 1. 調剤部門

**調剤業務:** 外来調剤は院外処方せんを発行していますが、夜間救急診療時は院内調剤を24時間体制で行っています。調剤は各病棟の定期処方と臨時処方の調剤を約6800件/月行っています。

**注射薬調剤業務:** 入院患者個人別注射セット・一部病棟の中心静脈栄養(IVH)の無菌調製等を行っています。

**抗がん剤調製業務:** 抗がん剤は外来・入院とともに薬剤部で調製しています。外来化学療法の増加に伴い調製件数も年々増加しています。

**医薬品管理業務:** 医薬品在庫の適正管理・麻薬、向精神薬の管理・院内製剤等の調製を行っています。

## 2. 病棟部門

6名の薬剤師が6病棟に配置され、服薬指導・持参薬確認・相互作用確認・アレルギー歴の確認・医薬品に関する情報提供・病棟在庫医薬品管理等を行っています。

**服薬指導:** 入院中に使用している薬剤、あるいは退院時に処方される薬剤の内容や飲み方について説明しています。

**持参薬確認:** ご自宅で服用されていたさまざまな薬剤を入院時にお持ちいただいていますが、それら



の薬剤の種類や効能を確認し、院内処方薬と重ならないように注意しています。

**薬剤適正使用:** 抗がん剤など薬剤の投与量を患者さん個人ごとに計算し、間違いないように監査しています。

**薬剤相互作用確認:** 複数の薬剤を同時に使用した場合に一方の効果を減弱させたり、逆に強めたりする場合があります。そのような薬剤の組み合わせになっていないかを確認します。

**アレルギー歴の確認:** 患者さんごとに過去に薬剤のアレルギーがなかったか確認します。

**医薬品に関する情報提供:** 新薬などをはじめとするさまざまな薬剤の効用、副作用などの情報を医師に提供しています。

**病棟医薬品在庫管理:** 病棟に置かれている薬剤の使用期限、薬剤の量などを把握し、無駄のない薬剤管理を行っています。

## 3. DI部門

医薬品情報の管理、月1~2回の薬剤部ニュースの発行、ジェネリック薬品の選別、医師・看護師等からの問い合わせ、医薬品安全情報の提供、院内医薬品集の発行、院内副作用報告の収集、薬学部実務実習学生の実習計画の作成等幅広い業務を行っています。

## 4. 治験業務

1名が専任で治験業務、治験事務局、使用成績調査等を行っています。

今後は病棟薬剤業務の充実、入院時持参薬の管理、抗がん剤の安全管理など薬物の適正使用を徹底し、医療チームの一員として努力していきたいと思います。

# 医師の交代のおしらせ

## 新 任

	シンドウ ユキト <b>進藤 幸人</b> 2月1日付 <b>内科</b>		スガノ ヒロシ <b>菅野 宏</b> 4月1日付 <b>消化器外科</b>		ホンダ コウスケ <b>本田 康介</b> 4月1日付 <b>内科</b>		マツバラ ナオキ <b>松原 直己</b> 4月1日付 <b>小児科</b>
	カナザワ ヤシシ <b>金澤 康</b> 4月1日付 <b>内科 医長</b>		ツヤ コウタ <b>津谷 恒太</b> 4月1日付 <b>内科</b>		ヨコタ ユウキ <b>横田 優樹</b> 4月1日付 <b>内科</b>		コミヤ エリコ <b>小宮 枝里子</b> 4月1日付 <b>新生児集中治療科</b>
	サクマ トモ <b>佐久間 朋</b> 4月1日付 <b>皮膚科 医長</b>		ワタナベ ヒロキ <b>渡辺 裕樹</b> 4月1日付 <b>内科</b>		テラダ ヨシユキ <b>寺田 義之</b> 4月1日付 <b>形成外科</b>		シデイ ツナノリ <b>四手井 紹則</b> 4月1日付 <b>新生児集中治療科</b>
	サワダ フミヨ <b>澤田 芙沙子</b> 4月1日付 <b>耳鼻咽喉科 医長</b>		オオシマ さやか <b>大島 さやか</b> 4月1日付 <b>内科</b>		ゴトウ コウセイ <b>後藤 公聖</b> 4月1日付 <b>脳神経外科</b>		アカイケ さやか 4月1日付 <b>眼科</b>
	タカサワ ケイ <b>高澤 啓</b> 4月1日付 <b>小児科 医長</b>		カメヤマ アイコ <b>龜山 愛子</b> 4月1日付 <b>内科</b>		エンドウ ノリユキ <b>遠藤 則行</b> 4月1日付 <b>整形外科</b>		フジキ ユウ 4月1日付 <b>救命救急センター</b>
	ミズキ コウヘイ <b>米沢 光平</b> 4月1日付 <b>救命救急センター 医長</b>		カワシマ マサハル <b>川島 雅晴</b> 4月1日付 <b>内科</b>		ヒライシ チカ <b>平石 知佳</b> 4月1日付 <b>小児科</b>		
	アキタ マモル <b>秋田 譲</b> 4月1日付 <b>整形外科</b>		ナカシマ サトミ <b>中島 理美</b> 4月1日付 <b>内科</b>		ノムラ トシヒロ <b>野村 敏大</b> 4月1日付 <b>小児科</b>		

## 退 任

岩渕 美代子 3月31日付 <b>眼科 部長</b> 長い間、ありがとうございました。 引き続き、本町で 診させていただきます。	谷口 真 3月31日付 <b>整形外科 医長</b> 安 学 3月31日付 <b>産婦人科 医長</b> 江花 梨沙 3月31日付 <b>形成外科</b>	宮川 雄一 3月31日付 <b>小児科</b> 酢谷 明人 3月31日付 <b>新生児集中治療科</b> 高橋 任美 3月31日付 <b>本町診療所</b>	岡林 佑典 3月31日付 <b>内科</b> 川名 真未 3月31日付 <b>内科</b> 三石 純江 3月31日付 <b>内科</b>	足洗 美穂 3月31日付 <b>新生児集中治療科</b> 伊崎 聰志 3月31日付 <b>皮膚科</b> 佐藤 慎 3月31日付 <b>救命救急センター</b>
的場 圭一郎 3月31日付 <b>内科 医長</b> 大橋 伸介 3月31日付 <b>外科 医長</b>	谷地 一成 3月31日付 <b>脳神経外科</b> 鈴木 智典 3月31日付 <b>小児科</b>	秋本 高義 3月31日付 <b>内科</b> 石井 敬人 3月31日付 <b>内科</b>	藤井 亮太 3月31日付 <b>整形外科</b> 早田 茉莉 3月31日付 <b>小児科</b>	

# 四季の移ろい

## 母の日と白いカーネーション

5月は皐月と呼ばれています。皐月とは早苗を植える時期【早苗月(さなえづき)】を略したもの。耕作を意味する古語の「サ」が元になっているという説もあります。また「皐月」の皐には「神に捧げる稻」という意味があります。その他5月の別名は菖蒲月・早月・橘月・稻苗月とも呼ばれています。季節的には初夏にあたり、五月晴れといわれるよう晴れの日が多く一年の中で一番過ごしやすい季節です。行事としては5月5日の子供の日と第2週の日曜日の母の日が浮かびます。5月の花は前述したように菖蒲月といわれるようあやめが有名です。その他、牡丹や水芭蕉などがあります。また母の日にちなんでカーネーションもイメージされます。

ところでカーネーションはなぜ母の日に贈られるようになったのかご存知ですか?調べてみると、始まりは1908年アメリカに住むアンナ・ジャービスという少女が亡き母

親の祭壇に白いカーネーションを飾り、出席者に配布したのが始まりだそうです。白いカーネーションは母親が好きな花だったので。この出来事がきっかけになり、1914年5月の第2週日曜日が母の日に制定されたそうです。当初は母親が健全な人は赤いカーネーションを、母親が故人である人は白いカーネーションを自分の胸に飾っていたそうで、それが、いつの間にか母親本人にカーネーションを贈る習慣と変化したようです。日本に母の日の習慣が伝わった当初は赤と白のカーネーションを区別して贈っていましたが、母親がいない子に配慮すべきとの声もあり、赤いカーネーションを贈る習慣が一般化したようです。また最近では、多彩なカーネーションが増えていることもあり、赤いカーネーションにこだわらなくてもいいという考えが広がっているようです。但し、いまでも白いカーネーションは母親が故人である場合に贈る色なので、白は避けた方がいいかもしれません。注意が必要です。そういうわけで私は今年も母の日には白いカーネーションを持って母親に会いに行きたいと思っています。  
(み)

## ミニギャラリー3ヶ月

2月は栄町・青木東絵手紙クラブの「絵手紙クラブ展」、3月は坪田純哉さんの「絵画展」、4月は松永英人さんの「写真展」でした。

絵手紙クラブ展は市内2ヵ所の公民館で活動しているグループの作品で、見たまま感じたままの言葉と絵で手紙を作っています。絵画展はいろいろな自然の現象を線や色彩で表現してくれて、「とてもきれいな色が相まって、心があらわれました。」という感想がよせられています。写真展は小鳥たちの「さえずり」が聞こえてくるような作品でした。

なお、ミニギャラリーの展示内容は医療センターHPでもご覧いただけます。

### ◆絵手紙クラブ展(2月)◆



### ◆絵画展(3月)◆



### ◆写真展(4月)◆



編集後記

新年度を迎えて早くも1ヵ月が経ちましたが、職場や学校などで新しい環境に身を置いた人達も徐々に慣れて来たのではないかでしょうか。木々の緑が濃さを増し、清々しい空気の中で体を動かすには最適な季節になりましたので、皆さん是非外に出てみませんか。  
これからも広報委員会のメンバー一同が、読者の方々にとって興味深く有益な紙面を提供できるよう心掛けて参りますので、よろしくお願ひいたします。

発行責任者 川口市立医療センター 栢木 武一  
編集 広報委員会  
〒333-0833 川口市西新井宿180  
☎048-287-2525(代表)  
HP <http://kawaguchi-mmc.org>